

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900244		
法人名	社会福祉法人幡豆福祉会		
事業所名	グループホームしはと		
所在地	愛知県西尾市西幡豆町池下66-1		
自己評価作成日	令和元年10月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2375900244-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和元年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の方針である「自立支援介護」(適正な水分をとり、体を動かす事で脱水予防とスムーズな排便を促し、体が元気になり、認知症状がとれる)を実践しています。
ここに「いる」のではなく今できる事を大切に「ここで暮らす」ホームを目指しています。野菜を切ったり洗濯をたたんだり、洗面所を拭いたり1人1人今できる事で活躍して頂いています。
誕生日会や感謝祭などの行事ではご家族にも声をかけ、入居後もご家族と繋がりが保てるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三河湾が望める南向きの丘陵地に事業所がある。落ち着いた雰囲気のある平屋建ての外観や内装は、清潔で手入れが行き届いている。地域の夏祭りでは事業所の前で太鼓奉納がされたり、地域避難訓練にも入居者と一緒に参加したりして、地域の一員として相互の交流を深めている。事業所主催の祭りには、地域の方や家族が訪れひと時を楽しんでいる。入居者が描いた絵画や書、作品、季節の生け花がそれとなく飾られ、居心地よい空間を醸し出している。人生の先輩である入居者に対して「畏敬と尊厳の念」を理念として事業所の目標を掲げ、「四つのハートの心」を具体的な行動指針として示し、入居者に笑顔で丁寧に接している。入居者のやりたい事、行きたい所などを要望希望一覧表に記載したり、ケアプランの目標に掲げたりして楽しみに繋がる様に職員が一体となって取り組んでいる。毎食手作りの食事が提供され、地元の新鮮な食材を活かした献立や「赤飯の日」、「刺身の日」、誕生日食などは食べる楽しみの一つとなっている。リビングには畳やソファのコーナーがあり、入居者はお気に入りの場所でテレビを見たり新聞を読んだり、職員と会話をしたりしてゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月に理念と認知症実践者研修の勉強会を実施したが、管理者の異動により、現在の管理者と職員は理念を共有できていないと言えない。今後も定期的に勉強会を企画していく。	理念を玄関や事務所、居間に掲示している。職員全員が携行している援助の手引にも記載されている。毎年理念に基づく事業所の目標を定め、毎月の会議で浸透を図り、サービスの向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元スーパーへの買い物、散歩などを実施し、近所の方と挨拶したり関わっている。利用者様と回覧板を届けに行く際は、利用者様が地域の一員としての役割を果たせるようにしている。	特別会員として町内会に加入し、会議にも参加している。祭りや防災訓練等に入居者と共に参加している。中学生の職場体験の受け入れや保育園児との交流もしている。事業所の主催の祭りに地域の方が参加して交流を深めている。また、買い物や散歩、回覧板の届けなど地域の一員として地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か所の中学校の福祉体験学習を受け入れている。事前説明で認知症の知識と人と人が話す時のポイントを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議では、要望はでていない。利用者会議での意見は、改善を具体的に検討し実行している。	入居者や家族、町内会役員、民生委員、市や包括職員の参加を得て年6回実施している。要望や希望などを形式に捉われず自由に情報交換をして意識の向上や運営に反映させている。また、秋祭り等のイベントと同日に開催することにより、家族の参加を促している。議事録は玄関に置き、いつでも手に取って見られるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの伝達事項はメールで確認をし、不明点は電話で教えて頂いている。	市の長寿課や地域包括支援センターの担当者が、運営推進会議に毎回出席をし、情報交換やアドバイスなどを受けている。議事録はFAXで市に送り、ケアの報告や代行申請、また、マニュアル変更時などで指導や助言を受け、気軽に相談できる関係を築いている。案内される研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、具体的な行為を全員が正しくは理解していない。	身体拘束に関するマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境づくりに努めている。スピーチロックを重視し、職員の発言を表にして分析し、原因を探り、話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図っている。過剰な干渉は拘束となると考え、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はないと思われるが、認知症状のある方が抑制的に感じる声掛けはある。勉強会は1度でなく定期的に必要だと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が知識が浅く、学ぶ機会や話し合いができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日とそれ以前の2日間を説明に充てている。質問に即答できない時は、確認してから答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は毎月1回利用者会議で今月の予定を伝え、要望の確認を行っている。資料の字が大きい方が良いとの事でA3用紙を使っている。	入居者は、日々のケアの中で思いを聞いたり、毎月1回の利用者会議で今月の予定を伝え、思いや要望を聞いてカンファレンスで共有し、ケアに反映している。家族からは面会時や行事、運営会議等機会あるごとに意見や要望を聞き記録をして、ミーティング等で話し合い、ケアや接遇などの改善に役立っている。玄関には意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からもっと話を聞いて欲しいと意見あり、真摯に受け止めこまめに意見を聞いていきたい。	日常の業務の中で、気楽に発言や意見交換ができる雰囲気作りをしている。毎月の全体ミーティングやケアプラン会議では、職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。年2回人事考課の個人面談では、各職員が将来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設けている。非正規職員にも年1回面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握はできている。やりがいなどの精神面はまだ話せていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	9月に常勤、嘱託職員が「理念の共有」の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西尾地区、中三河地区のブロック会議に出席し、他事業所の管理者と話す機会が持てて質問する事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問で、ご本人の要望、質問を確認し、入居後は細かく記録を記入して積極的に関わるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問で、ご家族の要望、質問を確認し、入居後も面会時に様子を伝え、要望の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内でのサービスになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事を生かせるように努めている。生活の知恵など教えて頂ける事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族の時間を過ごせるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に出かけている。馴染みの人に会いに行く機会は少ないが、ホームに会いに来て下さる方は多い。	アセスメントで入居者の生活歴を把握して、支援に努めている。墓参りや買い物など、できる限り職員が同行支援している。またミシン作業や編み物、畑仕事など生活の継続性が維持できるよう支援している。行きつけの美容院に出かけたり、着付けの先生だった方にイベント時の着付けをしてもらい、今までしてきた生活経験が途切れないよう入居者一人ひとりの思いに寄り添う支援を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、名前は覚えていない方もいるが、気の合う方との外出や席の配置に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の職員と情報交換を行っている。転居してからもご家族がホームを訪問して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス前や普段の会話から希望や要望を聞き取るようにしている。	傾聴に心掛け、思いの把握をしている。聞き取った思いは、申し送りノートやケース記録に記載し共有している。思いの表出の少ない入居者には、表情をくみ取ったり、日々のケアの中で思いを把握したりして、職員間で共有してケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人や家族の話や、普段の会話から聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の情報を踏まえ、現在の状態を見てその時の様子によって判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、その際、家族や本人の要望を聞き取り、職員間で話し合いを行い作成している。	日常の様子を記載した事業所独自の記録表で入居者の様子を記録し、それをもとに入居者や家族の意見を加味して計画を立てている。3か月に1回、見直し、状態が変化した場合は、医師等の意見を反映させながら随時対応している。どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートを活用し、職員間で今共有し、実践や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時、同法人内の事業所と連携をとり、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で行われる行事に参加した。相撲取りの方とのふれあいはとても喜ばれていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回往診があり、特変あれば受診に出向いて早期改善できている。ご家族が受診に付き添われるケースもある。	入居時に、かかりつけ医が提携医の希望を聞いている。日常のバイタルチェックは職員が行い、内科や眼科は月1回、提携医による往診がある。歯科も協力医があり、契約者の診察を行っている。提携医が外科・内科のため怪我などの初期診療も対応している。健康状態に変化があった時は、協力医療機関で適切な医療を受けられる。緊急時に対応できるようAEDの研修も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置がない為、随時かかりつけ医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	現状では病院からの連絡を待つ受け身の状態である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の可能性が見えた時点でご家族と話し合い、今後の方針を共有できた。	入居時に、重度化した場合や終末期について指針に基づき説明をしている。状況が変化した場合はその都度家族に相談し事業所としてできることを十分に説明し、法人内の特養や病院と話し合い、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回心肺蘇生法の訓練を行っているが、十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風19号で土砂災害警戒レベル3が発令された為、避難を実施した。今後管理者不在時にも動ける体制作りをしていきたい。	事業所では年2回計画し、夜間等を想定して実施している。地域と合同の防災訓練では、夜間や津波を想定した避難訓練を実施している。安否確認や声掛け避難訓練なども地域住民の協力を得て行っている。土砂崩れのリスクのある立地であるため、入居者参加での訓練を実施し、実際の避難に役立っている。備蓄品は3日分備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりそのままを受け入れ、プライドを傷つけないよう個々に合った声掛けや対応を行うよう努めている。	事業所の基本理念を基に入居者一人ひとりの声に耳を傾け寄り添い、これまでの生き方を尊重した声掛けや目線に配慮した支援を心掛けている。職員は常に笑顔で丁寧に接しているため、入居者の表情も明るく生き生きとし、家族の様な信頼関係が築かれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言いやすいように信頼関係を築くよう努めつつ、可能な範囲で自己決定が行えるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になってしまう時はあるが、可能なことは希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは起床時や必要時におこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、可能な範囲で行ってもらっている。	毎日の献立は入居者の希望を聞いて、職員が立てている。食材は近くの商店に注文している。地元の食材を利用する時は、入居者に調理方法などを聞いて調理することもある。また、「赤飯の日」や「刺身の日」、誕生には、自分が食べたいものが食卓に上り、楽しみの一つになっている。入居者と職員が会話をしながら一緒に食卓を囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は記録に残し、水分、栄養共に足りていない方を重点的に対策を立て支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己磨きの後、必要な人には仕上げ磨きをおこないつつ、口腔内の観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	前年に比べると紙パンツから布パンツへ2名変更できた。トイレでの排泄は行えている。排泄の失敗やおむつの使用を減らす取り組みはできていない。	排泄状況は排泄表で確認し、その人の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングなどを工夫し適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。状態をしっかり把握して、現状を維持できることを目標として支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、バナナ、寒天、散歩等、それぞれに合った方法で便秘の予防や解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるが、当日の様子で随時変更しながら入浴している。	入浴は2日に1回を目途し、湯の入れ替えは毎回行い、ヒートショック対策もしている。一人ひとりの希望やその日の予定、状態に合わせて臨機応変に対応している。季節を感じるゆず湯や、しょうぶ湯を楽しんだり、入浴剤を利用したりしてゆっくと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで部屋で休んでいる。週1目安にシーツ洗濯し寝具の清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用の把握はできていない。症状の変化は特変あれば記録に残し、早期の対応を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いでの役割、カラオケや塗り絵や散歩等可能な時に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は午前と夕方可能な範囲で行っている。買い物も可能なら利用者と一緒に行っている。それ以外の行きたい場所などの希望の聞き取りを行っている。	日常的に買い物や喫茶店、散歩などをしたり、洗濯物干し、畑仕事をするなど外気に触れることができるように心掛けている。また、菜園には季節の花や野菜が植えられ、水やりや収穫などをして季節の移ろいを感じ取れるようにしている。本人の希望を把握し、個別に外出できるように努めている。季節の花見やいちご狩り、花火大会など楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理していたが、認知症の進行で管理が難しくなりホームの金庫で預かる対応に変更した方もある。買物に行くときは本人の財布を持って、好きなものを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方は必要時自分でかけている。手紙のやりとりは特に希望ない為行っていない。年賀状を出す方はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は気が散ってしまうため、テレビは消している。季節の掲示物等している。	高台にある事業所は日当たりが良く、三河湾が見渡せる立地である。木材を基調とした内装で、適度に絵や作品等が展示されている。南向きの大きな窓がはめられたリビングは清潔で明るく居心地がよい。対面キッチンで職員とのコミュニケーションの取りやすい配置となっている。入居者の描いた油絵や日本画、書などが飾られ、落ち着いた空間となっている。畳のコーナーやソファなど好きな場所で寛いだり、テレビや新聞を見たり会話をしたりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でソファに座ってゆっくりしたり、3人掛けのソファでテレビを見ながら談笑したり、それぞれに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参してもらったり、自宅の部屋に近づけるよう配慮している。	居室は、大きな掃出し窓があり風通しの良い明るい居室になっている。入居者は使い慣れた筆筒やテーブル、仏壇やシンなどを持ち込み、好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。居室は清潔に維持され、安心して過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと居室は分かりやすいように表示している。トイレから食堂までの直線で車椅子自走を促している方もいる。		